【国語】　＜中学校　第１学年＞

１　結果のポイント

○「話すこと・聞くこと」について、話の内容や話の構成を正しく聞く力をみる問題では、正答率が９０％を上回っている。

●話し手の説明の仕方の工夫や、司会者の進め方の工夫を考えながら聞く力をみる問題では、正答率が７０％程度である。

○「書くこと」について、構成メモをもとに必要な情報を選び、伝えたい内容をまとめて書く力をみる問題では、正答率が８０％を上回っている。

●資料をもとに具体的な例や体験から自分の考えや理由をもち、決められた字数で書く力をみる問題では、正答率が６０％を下回っている。

○「読むこと」について、物語の展開に注意して場面の状況を正しく理解しながら読む力や、文章における語句の意味を正しく理解しながら読む力をみる問題では、正答率が８０％を上回っている。

○「言語事項」について、第１学年までに学習した漢字を正しく読む力や、文の意味を考えて正しい修飾語を使う力をみる問題など、ほとんどの問題の正答率が９０％を上回っている。

●漢字を正しく書く力をみる問題では、正答率が６０％程度のものがある。

２　結果の分析

（１）司会者の進め方の工夫を考えながら聞く力をみる問題の例（「聞く能力」）

＜問題＞　［一］の四

> この意見発表で司会者はどのような進め方の工夫をしていますか。最も適切なものをア～エの中から一つ選び、符号で書きなさい。
> ア　前の発表者の話し方のよさを示し、次の発表者がまねて使えるようにしている。
> イ　次の発表者の名前を述べるだけにし、自由な立場で意見を発表させようとしている。
> ウ　前の発表者の問題点を説明し、次の発表者に答えさせようとしている。
> エ　前の発表者の内容を短くまとめ、次の発表者の立場をはっきりさせようとしている。

＜結果＞　正答率　７５．１％　（正答…エ）

＜分析＞

この設問は、司会者の進め方の工夫を考えながら聞く力をみる問題である。正答率は７０％を超えており、司会者による話合いの進め方の工夫についてある程度の理解は図られているが、同領域の他の問題に比べると２割程正答率が低かった。また、同領域の問題［一］の二の「話し手の説明の仕方の工夫を考えながら聞く」問題の正答率も７３．２％と同じ傾向を示している。この結果から、話合いにおいて内容を正しく聞き取る力は身に付いているが、**話し方や話合いの進め方の工夫等については、話合いの単元の中で意図的に取り上げたり、実際の話合い活動の場を活用して一層丁寧に指導したりする必要がある。**

（２）資料をもとに具体的な例や体験から自分の考えや理由をもち、決められた字数で書く力をみる問題の例（「書く能力」）

＜問題＞　［五］の二

> 児童生徒の「話す力」「聞く力」の課題に対する先生方の五つの回答について、あなたが関心のあるものを一つ取り上げ、そのことについてあなたの考えと、そのように考えた理由を書きなさい。ただし、次の（条件）に従うこと。
> （条件）
> ①題名や氏名は書かないこと。
> ②書き出しや段落の初めは一字下げること。
> ③段落構成は二段落構成とし、第一段落ではグラフ中の項目の一つについてのあなたの考えを、第二段落ではそのように考えた理由を、具体的な例や体験を交えて書くこと。
> ④解答欄に合わせ、五行以上七行以内で書くこと。

＜結果＞　正答率　５７．４％　　（正答…略）
＜分析＞

この設問は、指定された条件に従って、自分の考えを明確にし、その理由を具体例や体験を交えて書く力をみる問題である。正答率は、昨年度に続き６０％を下回っている。誤答には、第一段落に自分の考えが示されていなかったり、二段落構成で書かれていなかったりなど、書く条件を満たせないものがあった。また、無回答は１割程度であった。グラフから関心のある項目（事実）を選び、それに対しての自分の考え（意見）を明確にもつことを問う出題であるため、日頃から事実に対して自分の考えを書く学習を意識して取り組んでいないと正答が難しいと考えられる。このことは、全国学力・学習状況調査のＢ問題「書くこと：広告カードの比較」でも同様な傾向が見られた。この結果から、**図表や資料から分かる事柄を読み取って自分の考えや気持ちを明確にし、目的や意図を意識しながら決められた字数や構成で書く指導を一層重視する必要**がある。

（３）表現の仕方や文章の特徴を正しく理解しながら読む力をみる問題の例（「読む能力」）

＜問題＞　二の五

> この文章の特徴の説明として、最も適切なものをア～エの中から一つ選び、符号で書きなさい。
> ア　母親の目を通して人物や周りの様子を描き、母親の優しさが伝わるように書かれている。
> イ　「現在」と「過去」の出来事を交互に描き、主人公の思い出が伝わるように書かれている。
> ウ　多くの比喩表現を使い、母親のつらい様子が伝わるように書かれている。
> エ　多くの短い文を続けて使い、主人公の楽しい様子が伝わるように書かれている。

＜結果＞　正答率 ７１．９％　（正答…イ）
＜分析＞

この設問は、表現の仕方や文章の特徴を正しく理解しながら読む力をみる問題である。正答率は７０％を超えており、文章構成や表現・表現技法等の特徴や工夫についてある程度の理解は図られている。しかし、同領域の他の問題に比べると、正答率はやや低い傾向を示している。また、全国学力・学習状況調査のＡ問題「読むこと：場面と表現についての説明」でも、同じような傾向が見られた。誤答としては「ア」の割合が高く、文学的文章において話者をとらえたり、作品の主題と表現を結び付けて考えたりする力が十分ではないと考えられる。この結果から、**教材で身に付けさせたい表現の特徴や表現技法を明確にし、書き手の工夫や表現上の技法に着目して読む活動を工夫する必要**がある。

（４）文の成分を正しく理解する力をみる問題の例（「言語に関する知識・理解・技能」）

＜問題＞　四 の三の３

> 次の１～３のそれぞれの文では、（　　）のどの言葉を選択するのが最も適切ですか。ア～エの中から一つ選び、符号で書きなさい。
> ３　「草原で馬が力強く走る。」の主語にあたる部分は、（ア草原で　イ馬が　ウ力強く　エ走る）です。

＜結果＞　正答率　８０．１％　（正答…イ）
＜分析＞

この設問は、文の成分を正しく理解する力をみる問題である。正答率が８０％を上回り、昨年度の類似問題の正答率６５．８％より高い結果となっている。その要因として、昨年度の出題が文の成分の「種類」を選択するものであったのに対し、本年度の出題が文の成分の「主語」に該当する「文節」を選択するものになり、多くの生徒が助詞「が」に着目して正答を選択することができたからだと考えられる。また、選択する文の成分「主語」は、小学校の早い段階から繰り返し扱われているため、生徒への定着度が高いと考えられる。この結果から、**言語事項に関する小単元の指導を引き続き充実させるとともに、自分の言葉として日常生活で使いこなせるような場面や機会の設定が必要**である。

３　分析を踏まえた指導の改善

（１）指導計画の工夫改善

話し方や文章の特徴等に目を向け、内容と同時に表現の仕方をとらえる指導の充実を！

・「話すこと・聞くこと」では、話し方の工夫や司会者の話合いの進め方に気を付けながら、話の内容や構成の工夫を的確に聞き取る力を高める必要がある。そのために、指導事項「構成や論理」や「語句や文」の内容を重点的に指導計画中に位置付け、生徒の主体的・体験的な言語活動を大切にしながら、内容面とともに表現の仕方を生徒が意識するよう年間指導計画を工夫改善することが大切である。

・「読むこと」では、内容の理解を図りながら、表現の仕方や文章の特徴にも目を向けられるようにする必要がある。そのために、全国学力・学習状況調査の結果分析でも示された、「表現の仕方や文章の特徴に着目できる指導」及び「読みの視点を明確にした指導」を参考にし、語句や表現を比較したり効果を考えたりする指導を充実することが大切である。またその際、学校図書館の活用を図り、表現技法に特徴がある作品を紹介し合ったり、同じ主題でも構成に違いがある作品を読み比べたりするような学習を位置付けるなどの工夫が必要である。

（２）指導方法の工夫改善

話し方や話合いの工夫を評価する活動の充実を！

・「話すこと・聞くこと」では、話し方や司会者の進め方の工夫について、そのよさを生徒自身が自覚し評価する力を高める指導が大切である。そのために、話の組立や事実と意見との関係を整理したり、司会者が話題に沿った話合いを進めたりする工夫を評価の観点として設定するとともに、評価項目・方法を明確にして、話し手・聞き手の双方の立場から話すことと聞くことをとらえた自己評価や相互評価を工夫する。

事実と考えを整理して書く活動の充実を！

・「書くこと」では、伝えたいことの中心を明確にし、適切な語句を用いて事実と考えを整理して書く力を高める指導が大切である。そのために、伝えたい事柄を明確にし、具体的な事実や体験を根拠にしながら、自分の考えをまとめられるようにする必要がある。また、書く機会をできるだけ多く設定して繰り返し指導し、生徒一人一人の書く力を丁寧に見届け、個の学習状況に応じた個別の指導の充実を図ることも必要である。

語句や表現を比較したり効果を考えたりして読み取る活動の充実を！

・「読むこと」では、文章の構成や展開をとらえて内容を理解する力を付けるために、書き手の表現の仕方や文章の特徴まで目を向けられる指導が大切である。そのために、文脈の中の言葉の意味を考える際、他の言葉と置き換えて比較したり、表現技法の効果を考えたりして読み取る指導が必要である。また、「書くこと」との関連を図りながら、グラフや図表、資料等の内容を正確に読み取り、内容に対する自分の考えをもつ力を育てる指導の充実を図ることも大切である。

言葉の類別の観点や言葉の成り立ちを大切にする指導の充実を！

・「言語事項」では、語句や語彙等の理解を深めたり、言葉の類別について理解したりする力を高める指導が大切である。そのために、生徒の興味・関心を引き出すよう、身近な言葉を具体例として取り上げ、言葉の成り立ちや言葉の類別の観点等を正しく理解させる基礎的・基本的な事項の指導が必要である。また、意図的・計画的な繰り返しの指導を行い、見届けと個に応じた指導を進めることも必要である。

（３）学習環境の工夫、学習集団の育成等

日常の学習習慣を確立する指導の充実を！

・生徒が小学校で身に付けてきた話し方、聞き方、話合いの仕方を把握して継続的に指導するとともに、日常生活における言葉遣いの指導にも配慮して言語環境を整えることが必要である。また、辞書類の活用や漢字使用の習慣化とともに、学校図書館の積極的な活用を図り、読書に親しむ機会の拡大や資料を活用する能力を高めるよう配慮する。

・毎日の生活の記録等に体験と感想を書き分ける方法を紹介したり、授業で学習した表現方法や着目するとよい表現をノートにまとめる方法を教えたりするなど、具体的な家庭学習の進め方を指導する必要がある。また、学習習慣の確立に向け、懇談や通信を通して積極的に家庭と連携しながら指導の充実を図る。

※指導改善事例は、「岐阜県総合教育センターＨＰ　教科教育等　学力向上ＰＪ授業改善（H16～18）及び授業改善推進プラン（H19～)」を参照する。(http://www.gifu-net.ed.jp/gec/)